



園芸作物栽培に関する

これからの対策と Q&A

今年のは夏は猛暑日が非常に多く暑い夏となりました。夏季の降水量は少なめで経過して来たことで、この秋は降水量が多くなることが懸念されます。圃場排水対策をしっかりと整えると同時に適期作業につとめ、健全生育を心がけてください。秋野菜は夏野菜と違って、暑い時期から冷涼な季節に向かう作型となりますので、初期生育をしっかりと確保することが大切です。また、9月は害虫の活動が最も盛んな時期となりますので、予防防除を主体にして被害を未然に防ぎましょう。特に幼苗期に食害されやすくと以降の生育が不良になります。

◎栽培のポイント

- ①前年アブラナ科野菜に根コブ病が発生していた圃場では、アブラナ科野菜を植えつけない。
- ②アブラナ科の連作は根コブ病等の障害があるので連作には気を付ける。ダイコンや秋ジャガイモ予定圃場には堆肥や鶏糞などは施肥しない。表皮が荒れやすくなるので施肥しない。
- ③肥料は適正量とし、多く与えずすぎないようにする。やりすぎは根痛みを起こし、生育不良になる。
- ④土壌害虫やアオムシ、コナガの初期食害回避に土壌処理剤を施用する。
- ⑤植穴処理剤（ジエイエース粒、モスピラン粒等）を施用して定植すると約1ヶ月効果が続く。
- ⑥雑草防止と肥料の流亡対策としてマルチ張りを行う。
- ⑦9月は雑草も生育が旺盛な時期なのでマルチを張ると後々の管理が楽になる。



根コブ病

◎圃場作りについて

秋作は台風に用心し、圃場排水対策は十分にしておきましょう。排水の良い圃場ではしっかりと立ててください。近年はネキリムシなど土壌中に潜む害虫による被害が多発していますので、予防のため基肥施用時にダイアゾン粒剤かフォース粒剤などを混和しておきましょう。また、ネコブ病の発生が懸念される圃場ではアブラナ科作物の植付けは見合わせてください。他に適当な場所がない場合はネビジン粉剤かフロンサイド粉剤またはオラクル粉剤を肥料と一緒に土壌混和しておきましょう。

◎定植作業上の注意点

- ・露地栽培では畝立ては中耕・土寄せするに十分な条間をとる。
- ・黒マルチ利用の場合は植え穴を土で塞ぐこと（熱気防止）と、苗の葉がマルチに触れないようにする（葉焼け防止）。
- ・活着まで晴天の日は水やりをする。与えた水が十分しみているか確認の習慣をつける。
- ・害虫の防除 秋は害虫の発生が多く、また大きくなるのも早いので、定期的な防除は欠かせません。高温年はシンクイムシ、コナガ、ヨトウムシの発生が特に多くなるので注意して下さい。秋雨の頃になるとナメクジも出てきますが、秋のナメクジは大型の固体が多いので食害も馬鹿になりません。

◎定植後の管理

スムーズな活着が以降の生育を良くしますのでマメに見回り状態を確

土壌病害対処の農薬一覧(根コブ病、そうか病など)

農薬名	登録野菜	共通登録野菜
ネビジン粉剤	大根	ブロッコリー、キャベツ、カブ、カリフラワー、白菜、パレisho、菜花、非結球アブラナ科
フロンサイド粉剤	小松菜、大根、レタス、ネギ	
オラクル粉剤		

◎適正な植栽密度を守る。

家庭菜園では密植になりがちですが、病害虫が発生しやすく、中耕等の作業もやりにくくなる。

◎播種・定植

秋野菜の播種・定植のスケジュールは左記の表のとおり（露地栽培の場合）となっています。秋は気温が低下する季節に向かうため、農作業のスケジュールはあまり余裕がありません。春は播種時期が少々違って収穫時期はあまり変わりませんが、秋は播種が3日遅れると収穫は1週間遅れると考えてください。

品目	播種時期	定植時期	備考
ニンジン	7月下旬~9月上旬	-	8月中旬以降の播種は翌年収穫
白菜	8月上旬~8月中旬	9月上旬~9月中旬	
レタス	8月中旬~8月下旬	9月上旬~9月中旬	
大根	8月中旬~9月上旬	-	
カブ	8月下旬~9月下旬	-	
ネギ	9月上旬~9月下旬	翌4月上旬~4月下旬	春播きも可能
タマネギ	9月中旬	11月上旬	
ホウレンソウ	9月中旬~10月上旬	-	
小松菜	8月上旬~10月上旬	-	
秋ジャガイモ	9月上旬	-	品種選定に注意
越冬キャベツ	10月上旬~10月中旬	11月上旬~11月下旬	品種選定に注意

お問合せ先



東部ふれあいセンター内
営農生活課 担当：高橋
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

認みましょう。小さなポット苗では乾燥が早いので、活着し生育始めるまでは晴天日は毎日灌水してください。

◎追肥

秋野菜の追肥は基本的に2回行います。1回目は播種、定植後2週間目頃。2回目は白菜など結球する作物では結球始め、ブロッコリーなどは花蕾が見え始めた頃、大根などは1回目の施用後2週間目位で間引きを兼ねて行います。施肥量は「そさい3号」で1株（本）当り5〜10g程度で（大根は5g程度）、できれば除草を兼ねて土壌混和し土寄せします。マルチ栽培の場合は生育に問題がなければ、1回目の追肥は行いません。2回目はマルチの肩部分に施用します。

◎追肥時期

播種・植えつけ後3週間すぎたら1回目の追肥（そさい3号、5号など）を行います。結球するものは結球し始めにも追肥を行います。なお、施肥位置に注意し肥あたりを起こさないようにしましょう。

◎病害虫の防除

秋はアオムシやコナガ、シンクイムシ、ヨトウムシ、アブラムシなど害虫が多く生息する中でスタートとなりますので害虫の防除対策はしっかりと立てておかなければなりません。まずは定植時期の植穴処理剤、土壌処理剤を施用することが大切です。また、ハクサイ、キャベツなどは結球内部に食い込まれると防除困難となりますので結球の始まる前にはしっかりと害虫を退治しておいてください。なお、残暑が厳しい年は湿度と窒素過多により軟腐病、黒腐病、斑点細菌病、べト病などが発生しやすくなります。更に、台風などによる傷みが病気を助長しますので、風雨の後



追肥の過剰施用